

AM

<KAT 語録>

Downshift vs Relaxed Alertness '無駄な力がない注意深さと集中力'について

- ・ PA や MAP の言葉(用語 : FVC,CBC)は先人の言葉として用いて, 自分なりの言葉に置き換えて使えばよい。
- ・ 関わりの中で学ぶということ, ユニークさから学ぶということ, 「認め合う (FV) とはどういうことか?」から作っていくことも大切。やり方もみんな考えていく。

<Relaxed Alertness の実験>

- ① 6 から 7 人が縦一列で椅子に座る。
- ② 最後部の人があるパターン (図, 模様など) を書く。3 回書いて伝える。
- ③ 順々に前の人に伝えていき, 一番前の人には伝えられたパターンを黒板に描く。
- ④ 発信元の最後部の人もオリジナルを描く。

なぜうまくできないのか?

- ・ 脳の特性をあらわしている : 意味付けして認識
- ・ 脳のクリエイティビティの作用 : 情報に修正を加えていく。

<多様性・見方を変える実験>

- ・ 名前の逆読み⇒ネームリレーワープ



<粘土作品をみんなで見る>

- ・ 作成者の説明をみんなで関心を持って聞く。(FV)
- ・ 説明は感情が入ってくるのでCBCで。
- ・ 自分の過去のふりかえりになる。⇒当然のことながら, 人に育てられたことがわかる。
- ・ 影響を受けた人の存在⇒今の自分のどんな部分を成しているか。
- ・ 他のテーマとして『自分にとって学校とは?』, 『どんな家庭を作りたいか?』, 『どんなクラスを作りたいか?』
- ・ 自分の生育史, 背景, 価値観を語れない(共有できない)人には子どもを預けられない。
- ・ 結果をねらった体験 (行事)ではなく, プロセス (=学びの場) を重視する。

PM

<「伝える」ということを感じてもらう実験>

- ① 2人組になり, 一人は目を閉じてペンを持ち, もう一人の指示に従ってある絵(鳥)を描く。
(3人組で1人が指示, 2人が絵を描くのもおもしろい。)

② 2人で振り返り⇒シェア

- ・何か途中で起きて、『それじゃあ、2人でこうしていこう』というのがあったはず。

○「人はどう学ぶか？」(脳, 生徒の特性)を知って, 自分の授業をどう工夫するかを考える。=MAP
がチャレンジすべきことの一つ

脳に起こるダウンシフト

●ダウンシフトが起こると...

- ・自分を守る
- ・新しい行動をとらない
- ・以前に学んだことも無視し, 注意散漫に
- ・ルーティーン行動しかとらない
- ・幼稚な行動
- ・新しい状況に適応できない
- ・新しいチャンスをつかめない

●ダウンシフトの原因となること...何が起因するか？

- ・正解という一つの答えを押し付けられる時
- ・自分の考えを出せない, 選択肢の無いとき
- ・意味付けが出来ない時
- ・賞罰など外発的にコントロールされる時
- ・個人の努力が認められない時
- ・意味の無い時間制限
- ・行き先, 方向性が見えない不確かさ
- ・支援が無い状況
- ・戸惑いの永続

●ダウンシフトを避けるには...

- ・決まった正解がないこと, オープンエンドな可能性があること
- ・選択肢があること
- ・考え, 答える意味があること
- ・個人的にも意味があること
- ・実際の生きる力につながること
- ・内発的動機が重要視されること
- ・協力と創造力は個人のオーナーシップがあつてこそ活かされる
- ・時間的余裕を持つこと
- ・脳は45~55分でプロセスをしない(理解や応用には個人差あり)
- ・課題は達成(解決)可能なもの, サポートされるもの

◇MRIによって脳の研究が進んだ。

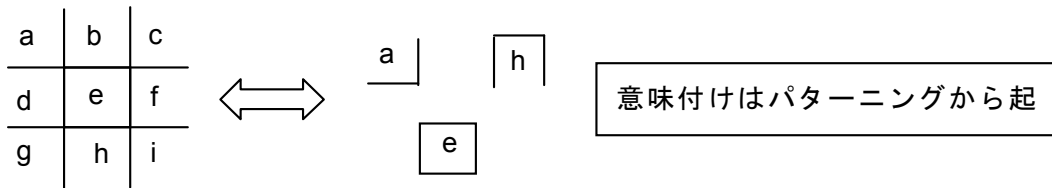
◇MI(多重知能)とEQ(こころの知能指数)

◇安心して、安全に学べる脳環境を学校の中でどう作るかが大切。

Mind/Brain (Based) Learning Principle

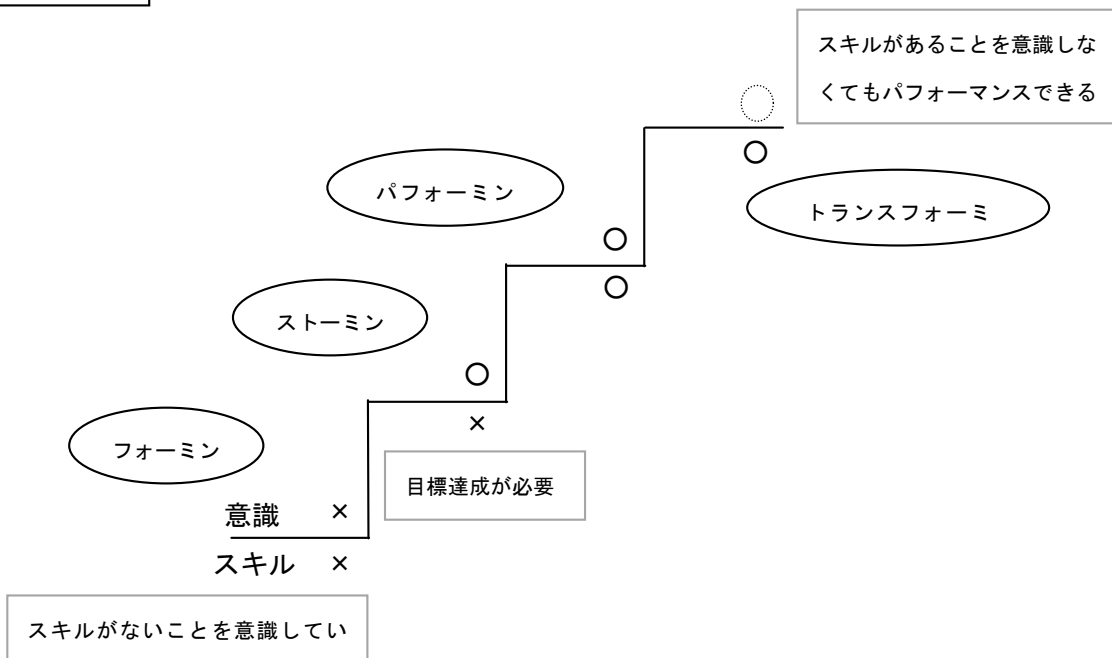
●脳が学ぶとき・脳の学習原則

- ・脳は適応するシステム
- ・脳は社会性の中で発達する
- ・意味付けを先天的に行う
- ・意味付けはパターンニングから起こる→つながりが大切
- ・感情はパターンニングに影響する
- ・感情と思考は同時に起こるもの、密接な関係
- ・部分と全体を同時にとらえる
- ・学びは集中力と周辺の知覚両方を伴う
- ・学びは常に意識と無意識のプロセスで起こる
- ・メモリー(記憶の仕方)には2種類がある
 - ①関連の無いもの、②自然につながるもの
- ・学びは発達していく、多くの体験・刺激は脳を発達させる
- ・学びは複合的であり、チャレンジによって高まり、脅しによって抑えられる
- ・全てがユニークに組織化されている、つながっている



階段セオリ

(グループのダイナミク)



○Chika Boom : チカブン

○セアエア握手 : カナダのセイリッシュ族の言葉で '友達'

○サイン・シンボルであいさつ : ハイタッチなどのように共通のやりかたで二人が応じあう

○おもちゃ配り→Win/Win の関係に気づく

○アメリカの幼稚園で行動療法を実践している例の紹介

○振り返りと反省との違いは何か? 何が起きたか?→理解・一般化→Now what?

- ・振り返りは本来一人でやるもの。あえて、全員で対話する必要とは何か?
- ・小学生ならクイックチェック, 温度計, 5段階などで十分。
- ・目標に向かっての活動だから振り返りができる。レクリエーションには目標が無い。「目標に対して自分がどうだったか話し合ってみて。」
- ・PA, MAP は FV を伝えていく使命がある。『安全』という目標設定を与えて活動させることで FV を伝えることになる。
- ・CBC...その場にいる権利は全員にあるので, やらない人にも居場所を作ってあげる。(役割を作るなどして)
- ・スポンジのように吸うから振り返りができる。スポンジで吸い取ったものを吐き出す感じ。ゴアテックスのスポンジになってはダメ。

○3人組になり, トランプのカードを選んで振り返り

○EQについて

「学校での成績が伸びるかどうかは, 知識の蓄積や読解能力よりむしろ情緒的, 社会的能力によるものが大きい。」国立幼児臨床センターデータ

7つの能力

①自信②好奇心③計画性④自制心⑤仲間意識⑥コミュニケーション⑦協調性

EQ

- (1)自分自身の感情を知る。
- (2)感情を制御する。
- (3)自分を動機づける。
- (4)他人の感情を認識する。
- (5)人間関係をうまく処理する。

○MI(マルチプルインテリジェンス)→多重性知能について

- (1)空間・視覚運動
- (2)言語



(3)人間関係

(4)音楽的才能

(5)身体的努力

(6)自己内面的

(7)論理・分析

(8)自然・環境に対する気づき

他人の知性→他人の気分， 気質， 動機， 欲求を識別しそれに適応する能力

心内知性→自分の中の感情を理解し判断， 行動指針とする能力

<KAT 語録>

- ・「みんな違ってあたりまえ」というふうに認め合うところからフルバリューは始まる。
- ・FVCの概念を作ったジム・ショーは30年以上， 現在もFVCについて考えている。
- ・FVCの源はどこから来ているのか。もしかしたら何千年も前， ソクラテスあたりから来ているかもしれない。
- ・みんなが今まで受けていた他の研修はどんなもの？どんな学びの環境？ネクタイ締めて一日同じ研修を受けながらも， 隣の人の名前も聞かないで帰ってこなかった？
- ・フルバリューも変化していったらいいだろう。
- ・名前をローマ字で書いて逆読みをする。つまり言語として未知なことをやってみる。すると口， 舌のふだん使っていない筋肉を使うことになる。これでいかに英語学習が簡単か生徒には分かる。
- ・粘土の彫刻をいろいろなところでやると子供の頃と自分のルーツの振り返りになる。今日のみんなの話を聞いていると， 生活に苦勞をしていた時代のほうが人が育っていたように思える。物質的に苦勞していない今の時代の子供はどうなのか。
- ・結果だけを見てではなく， どうできたか， どう関わったかという過程を見る。
- ・適確な対峙。「お前はだめだ」ではなく「お前は好きだけど， おまえのこういう行動は許せない」という言い方。
- ・正解があるわけではなく， 正解をつくっていく学習。
- ・インターネットで知識吸収の勉強ができる時代に学校現場の先生達の仕事はなに？

